コラム

慶應義塾大学関連病院図書担当者とのおつきあい

佐藤友里恵（さとうゆりえ）
（信濃町メディアセンター主任）

慶應義塾大学関連病院会（以下「関連病院会」とする）というものがある。信濃町メディアセンター（以下「メディアセンター」とする）に異動して初めてその存在を認識した。調べてみると『医学部新聞』第166号（1963.4.20）に“慶応義塾大学関連病院長会発足す”という見出しの記事があった。半世紀以上にわたる歴史を有する会である。情報共有，組織連携および人事交流，医師の育成と働きがいのある職場の確保を目的として，慶應義塾大学医学部卒業生である三四会会員で病院長またはこれに準ずる者が会員となっている。そして，会員が勤務する病院が慶應義塾大学関連病院（以下「関連病院」とする）である。現在，慶應義塾大学病院勤務の会員を除き，約100名の会員がいる。会員一覧や目的の全文などについては，同会Webサイト（https://www.sanshikai.jp/kanren-byouin/）を参照いただきたい。

また，三四会については，本誌27号（2020）のコラム記事に詳しく記されているので，興味があれば一読をお勧めする。

関連病院で働くスタッフの中に，図書室業務あるいはそれに準ずる業務を行う担当者がいる。我々以上に医療現場に近く，情報提供の面から医療を支え，若手医療従事者の育成をサポートしようと奮闘していらっしゃるのではないだろうか。関連病院会の母体となる慶應義塾大学病院に併設されたメディアセンターが，この方々へのサポート活動をしているので簡単に紹介したい。

電子リソースコンソーシアム：

学術情報環境の整備，および若手医師への教育研究支援を目指したもので，2009年契約のコンソーシアム提案から始まった。2008年の関連病院会春季総会で当時の医学部長よりコンソーシアム創設（案）が提示され，メディアセンターが中心となって出版社との交渉を行い，10月には２社の提案について説明会が開催された。当初の契約は約30機関にも及んだ。現在は５社に協力してもらっているが，近年は関連病院会に特化した特別提案を引き出しにくくなっている。しかし，予算的に助かっているという声があるので，今後もしばらくは継続していくことになるのだろう。

関連病院図書担当者連絡会：

メディアセンターに対して上記のような予算面でのサポートのほか，サービス面での連携・協力を求める声が関連病院から寄せられていたことから，電子リソースコンソーシアムに続いてさらなるつながりを発展させる目的を掲げて，2016年に第１回連絡会が開催された。初回は23機関・25名の参加があり，メディアセンターへの期待の大きさを感じた。第２回以降は10数名の参加数に落ち着いている。基本的には年１回テーマを決めて連絡会を開き，電子リソースコンソーシアム契約の最新動向の情報共有，メディアセンターの活動報告や利用者教育に関する情報提供，参加者同士の情報交換・懇親の場を設けている。当初はメディアセンターやキャンパスの見学会も兼ねていたが，コロナ禍の影響を受けて，2020～2021年度はオンライン開催とした。移動の時間がなくなったこと，１人の職場でも参加が可能となることから，新たな参加者も生まれて喜ばしい側面もある。年に１回でも「はじめまして」「またお会いしましたね」からの交流が進むような機会を設けることに意義があると考える。

病院によって図書担当者の立場や環境が様々であるため，日々の業務の中で得られる情報量や検索テクニックなどにおいて参加者の中での大きな開きを感じることも多く，毎回のテーマ設定も悩みどころだったりもする。

上記連絡会で寄せられた要望への対応ができていないこともあるので，まずはこれらのフォローを心掛けたい。そして，まだお会いしたことのない関連病院の図書担当者へも届くようなサポートや交流も徐々に実現させていきたいという，なかなか難しいかもしれないが長い目で見た目標も抱えつつ，次の連絡会のテーマを考えていこうと思う。